フィンランド映画の史的展望〈1940〜1977〉

第二次大戦後になって力作を相次いで製作しているにも拘わらず，映画製作国としてはマイナーのグループに属すると判断されたため，わが国の一般映画劇場で上映される機会に恵まれない国の映画は少なくありません。フィルムセンターでは，これまでにも，そういった国の映画として，カナダ，ベルギー，オーストラリア，スイス映画を機会あるごとにとりあげて上映し，映画を通じてそれぞれの国の独特の文化や興味深い風俗などを皆様に理解していただくよう努めて参りました。今回，フィルムセンターでは，フィンランド・フィルム・アーカイヴとフィンランド大使館のご協力をえて，特集番組《フィンランド映画の史的展望1940〜1977》を企画し，1940年から77年までの間に製作された数々のフィンランド映画の中から話題作10本を選び，連続上映いたすことにしました。北欧に位置しながら東洋的なものを多分に感じさせるフィンランド映画の不思議な魅力を存分にご鑑賞いただければ幸いです。

1981年12月　　**フィルムセンター**

■日曜・祝日は休館。午後3時・6時15分の2回上映（開館は午後1時で，先着順にて定員239名に達し次第締め切ります）。
■＊印の作品は字幕なし。他は全て英語字幕付きです。

一般250円・学生140円・小人100円

期　日	題　　名	製作年	監　　督	出　　演　　者
12月2日(水)	白いトナカイ(68分)	1952年	エリク・ブロンベールィ	ミルヤミ・クオスマネン，カレルヴォ・ニッシレ 聖なるトナカイが乗り移って男を殺す，悲しい美女の物語。カンヌ映画祭伝説映画賞。
3日(木)	ある男の道(93分)	1940年	ニルキ・タピオヴァーラ	ミルヤミ・クオスマネン，グンナー・ヒイロスコルピ，ヘルヴィ・イェルウェイネン 妻をなくした若い農場主が，相続問題に悩みながら，昔の恋人との愛を取り戻すまで。
4日(金)	＊夏の夜の人々(66分)	1948年	ヴァレンティン・ヴァーラ	エイラ・ペーコネン，マッティ・オラヴィスト，マルッティ・カタイスト 夏の白夜に起きた殺人と出産をめぐる人間模様。森と湖の村を抒情豊かに描く。
7日(月)	刈入れの月(80分)	1956年	マッティ・カッシラ	トイヴォ・メケレ，エンメ・ヴェーネネン，ラウニ・ルオマ 運河の番人をする男の家庭に，彼の昔の恋人が訪れた事で起る数々の波紋，そして自殺。
8日(火)	ある工員の日記(89分)	1967年	リスト・ヤルヴァ	エリナ・サロ，パウル・オシポウ，ティッタ・カラコルピ 新婚夫婦の心の擦れ違いを新鮮な手法で描き，現代フィンランドの様々な問題を透視する。
9日(水)	グリーン・ウィドウ(76分)	1968年	ヤーコ・パッカスヴィルタ	エイヤ・ポッキネン，リスト・アールトネン，フレディ・マッティ・シートネン かまってくれない夫に耐えかねて麻薬，浮気に走る人妻の孤独な生活の実態。
10日(木)	死の八発(144分)	1972年	ミッコ・ニスカーネン	ミッコ・ニスカーネン，タルヤ=トゥーリッキ・タルサラ，パーヴォ・ペンティケイネン 密造酒のために身を滅ぼし，家族に捨てられ，警官を射殺するアルコール中毒男の末路。
11日(金)	大地は罪深き歌(108分)	1973年	ラウニ・モルベールィ	マリッタ・ヴィータメキ，ニーレス=ヨウニ・アイキオ，パウリ・ヤウホイェルヴィ 南ラップランドの閑村に住むメケレ家の人々を中心に描く愛と性と死の峻厳な鎮魂の詩。
14日(月)	アンティ・プーハーラ(98分)	1976年	ヘイッキ・パルタネン	ペルティ・ヒルカーモ，マルック・プロムキスト，マリッタ・ヴィータメキ 木の股に捨てられたアンティが自己発見の旅に出て，予言を実現するまでを描く。
15日(火)	野兎の年(125分)	1977年	リスト・ヤルヴァ	アンティ・リトヤ，リタ・ポルスター，ユハ・カンドリン 路上で拾った野兎のために全てを捨てて野山を歩きまわる男の〈脱社会〉ドラマ。

■12月1日(火)，16日(水)は休館。土曜日は〈清水宏監督研究(3)〉として，「団栗と椎の実」「簪」(5日)、「サヨンの鐘」(12日) をそれぞれ午後1時30分より上映致します。なお，5日午後4時からは〈ロッテ・ライニガー影絵アニメ選集〉を上映致します。

東京国立近代美術館　**フィルムセンター**　中央区京橋3－7－6　☎(561) 0823　地下鉄・京橋駅(銀座線)，宝町駅(都営浅草線)下車